

クラウドへの柔軟な移行を実現する Secure Productive Enterprise

(この記事は 2016 年 7 月 20 日に Microsoft Volume License Blog に投稿された記事「Secure Productive Enterprise licensing unlocks new flexibility for customers navigating to the cloud」の翻訳です。最新情報については、[翻訳元の記事](#)をご参照ください。)

7 月 7 日に発表したとおり、マイクロソフトは 2016 年第 4 四半期に Secure Productive Enterprise の提供を開始いたします。このソリューションは、妥協のない生産性、共同作業、モビリティ、ビジネス インサイトの実現と最も重要な要素である安全なエクスペリエンスを通じて、お客様のデジタル変革を支援するものです。

Secure Productive Enterprise は、マイクロソフトが推し進めるライセンス製品の刷新に向けた重要な取り組みの 1 つであり、**オンプレミスとクラウドのいずれにも対応するこれまでにない柔軟な新しいライセンス資格**により、お客様が現在変革のどの段階にあっても、自社のニーズに合った製品をスムーズにマイクロソフトから購入できるようになります。

Secure Productive Enterprise の構成は以下のとおりです。

Secure Productive Enterprise E3 以前の Enterprise Cloud Suite (ECS)	Secure Productive Enterprise E5 新製品
Office 365 E3 Enterprise Mobility + Security E3 Windows 10 Enterprise E3	Office 365 E5 Enterprise Mobility + Security E5 Windows 10 Enterprise E5

お客様には今回初めて、**クラウド ファーストとオンプレミスのいずれにも対応する柔軟な 1 つのユーザー単位のライセンス**を利用して、オンプレミス環境から独自のペースで移行を進められるようになります。つまり、このライセンス ソリューションでは、デバイスの台数や生産性サーバーの台数は関係なく、オンプレミスとクラウド間での移行時にライセンスを追加する必要がありません。ユーザー単位のライセンス 1 つで、オンプレミスとクラウドのどちらのニーズにも対応します。

なお、いずれのバージョンの Secure Productive Enterprise にも、以下が含まれます*。

- Secure Productive Enterprise により ライセンスを付与されたあらゆるユーザー向けのオンプレミス生産性サーバー資格 (Exchange、SharePoint、Skype for Business を含む)

- 1つのオンプレミスにインストール可能なユーザー単位の Office Professional Plus

Secure Productive Enterprise で提供される Office Professional Plus ライセンスと生産性サーバーの資格を活用すれば、お客様のデジタル変革に影響を及ぼすと考えられる特殊な基幹業務シナリオやミッションクリティカルなシナリオにも柔軟に対処できます。なお、現在マイクロソフトのライセンスをご利用のお客様には、Secure Productive Enterprise に簡単に移行していただくための手段が提供される予定です。

Secure Productive Enterprise E3 および E5 は、提供開始時点では、Enterprise Agreement、Enterprise Agreement Subscription、マイクロソフト製品/サービス契約 (MPSA) を通じてご契約いただける予定です。また後日、Cloud Solution Provider プログラムでもご契約いただけるようになる見込みです。

Secure Productive Enterprise の詳細については、[こちら \(英語\)](#) をご覧ください。

*オンプレミスの資格はプログラムの提供状況に依存し、またライセンス条項に従います。提供開始に先立って詳細が発表される予定です。